
愛しの火影様へ

フィロト・シプレ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛しの火影様へ

【Nコード】

N8243S

【作者名】

フィロト・シプレ

【あらすじ】

朝、起きたら机の上にラブレターが置いてあった。

相手は従姉の麗子から。

ちなみにあたしは女。

つまり、女から女へのラブレター。

暴走癖のある子だからきっぱり断るため直接会ったんだけど……

人生最悪だった。

年齢制限のないお話です。

誰もが魔法を使える世界。

魔法は学校で習い、生活の一部として馴染んでいた。

しかし、どんな世界でもイタズラはあるらしい。

そんな世界のちいさな物語である。

あれ？ 今あたしの声でナレーション？

いつの間にかイスに座ってて従姉から手紙を見てた。

白い封筒にはお花のシールがいっぱい貼られててラブレターみたい。表紙には”愛しの火影様へ、可愛い麗子より”って書いてある。

何のイタズラかしら？

あたし、女よ。

無視したい。

ものすごく無視したい！

生理的嫌悪感が身体を震わせる！

でもいつもなら絶対あり得ない、あり得ないわ！

あ、そうか！

「これ、夢よね！ 夢だからほっぺつねっても痛くないわ！ 痛くないわよ！ いたたたたっ！」

何で夢なのに痛いのに！

引っ張ってしまった頬を氷水でアイシング、総合武術やってる癖よね。

タオルの冷たさは現実逃避できないって言うつらい現実を教えるくれる。

いや、これは幻覚魔法よ！

魔法を学校で習えるこの時代ならこんな幻覚魔法ぐらい誰でも使

えるじゃない！

寝てる間だから引つかかったけど、どう解除しようかしら。
麗子が変な奴なのは以前から知ってたけどこんな事するなんて。
イタズラなら怒鳴れば良いけど本気だったら殴っちゃうね。

武術習ってるこのあたしが。

麗子も武術はやってるけど週2日ぐらい修行とエクササイズレベル、一発殴れば倒せるレベルよ。

ただ、ケガさせちゃうわよね。

って！ 怖い想像はここまでにして！

意識を別の方に持っていくため部屋を見る！

ここはあたしの寝室、今木製で赤いワークチェアがある。

その前に木目をパズルのように合わせて絵のようになってる机があつて、あたしはここで手紙を読まされてる。

机の上には小物入れとクマさんの時計。

現在午前5時、いつもなら気持ちいいのに今日は違う。

怖いことは忘れないと！

次！ おとぎ話に出てくるような鏡。

鏡には当然あたしの顔、炎色の髪と赤い目の少女が映ってる。年寄りからは険しい顔って言われるけどそれ以外の世代からは格好いいって言われる。

麗子を含む親戚達からセクハラされるし、なかなかじゃないかしら。

ほっぺを叩くとお肌は快調！

でも笑顔はないわね、あのイタズラの所為で。

寝起きなのでまだパジャマ姿、もこもこの花柄で武術とまったく違うイメージよね。

う、麗子の「火影はどんな服でも似合うね、かわいい」ってセクハラしてくる姿を想像しちゃった。

被害妄想がどんどんひどくなってる！

手紙の中はきつと「うそ」って書いてあるわ！

きつとそうよ！

読まなきゃ一生もやもやよ！

よし、レターカッター配備！

「開けてやるわよ！」

封筒を切る腕はすぐ震えてて、なかなか綺麗に切れない。

がんばれ！　がんばるのよ火影！　しっかり！

12センチの紙を切るのに5セットの深呼吸をするあたし、怖がりすぎじゃない！

あいた！

これで「うそ」って書いてあれば救われる！　救われるのよ！

でも、出てきた紙はラメ入りの便せんだった。

夢よね、現実じゃないよね？　悪夢って言う奴だよね？

ちよつと怖い、生まれて初めてつばを飲んだ。

「麗子ってこんな趣味だったっけ？」

口に出して否定案を考える、いたずらに決まってるじゃない！

麗子の方がかわいいんだから本気なわけない！

なのに！　なのに！

「なのに何でこんな手紙送ってくるのよ！」

” 愛しの火影様へ

私、麗子は火影様に告白したいことがあります。

照れくさくてすべて手紙に書いてしまおうかと悩んだのですが、やっぱり口に出して言いたいです。

どうか、私の気持ちを受け取ってください。

あなたを愛する麗子より”

「なによこれ！　こんなもん！」

この変態の手紙は私の炎で消滅、これでなかったことに出来るわ！

不愉快だからストレッチしてジョギングね！

両手を挙げて全身を光らせるとパジャマがスエットスートに変わった。5歳の頃に習うすごく大切な魔法よね。

日常動作は普通にできる、いけるわ！

ってあれ？ とても大切なこと忘れてないかしら？

あたしは幻覚を見るのよね？

幻覚を解除しようとしてるのよね？

なら、犯人の確率が一番高い麗子を問いつめるべきじゃないかしら？

「そうよ！ 問いつめるべきなのよ！」

なんで今日、いつもに輪をかけて変態になっちゃったかを突っ込まないと！

いざ！ 敵の城へ！

敵の城まで歩いて約65秒、どんどん闘気をみなぎらせていった。うちは親戚が同じ家に住んでるから移動は楽よ。

でも、今回は楽すぎてスエットスートのまま部屋を出た。

そして城で真っ先に言われたのは。

「火影！ こんな大切なときに何その色気のない服！」

「何であたしが怒られるのよ！ いたずらについてしっかり説明しなさい！」

と、大理石の机を叩く。

ちよつと手が痛いけど気にしないわ。

それより問題は麗子よ！

おもいつきり睨んでも笑顔で返された。つり目で清純そうなお嬢様。

そのかわいい顔をさらに睨むと泣き顔に。

胸ぐらつかんだら押し飛ばされた！

「なんなのよもう！」

「火影、大切な話なの」

「だからとつとと言いなさいよ！」

潤んだ目と上目遣い、多くの大人達をノックアウトした表情。あたしはこの程度じゃ負けないわよ！

手を組んでなんだかもじもじしてる、嫌な動きね。

「私、火影に恋しちゃったの」

「やだ」

即答よ！

あたしは女同士の趣味なんてないんだから！
それに親戚って言う二重のタブーじゃない！

「絶対いやよ！」

「そう、それじゃあ。しょうがないよね」

あれ？ あきらめた？

結構あっけなく引いたわね、別の奴には15年間恋い焦がれてたのに。

ま、2連敗でちよつと可愛そうかな。

ショックだったみたいでうつむいて身体を震わせている。

でもかわいそうと言うより恐怖を感じた。

なんだか麗子から黒いオーラが出てる？

なんとか逸らさないと、嫌な予感がする。

「あんた、別に好きな奴が居るんじゃない？」

「その人なら、飽きた」

「飽きた！？」

なによそれ！

15年間そいつ一筋で、つまり産まれたときから恋してた相手を飽きたの一言！

あり得ないわ！

「どうしちゃったのよ！ ものすごく変よ！」

「仕方ないじゃない、飽きたんだから」

そいつに飽きたからあたしに八つ当たり？
ない！

そんなこと絶対ないわ！

いけない、そろそろおわらせないと殴っちゃう。

逸らすことばが思い浮かばない、かなり傷つけちゃうけど仕方ないわよね。

最終手段よ！

人づてに謝つといてあげるわ。

「あたし、麗子のこと嫌いだったの。何でこんな変態が寄ってくるんだらうって」

「そう、でももう逃がさないわ。逆らえない身体にしてあげる」
ちよ、なによこれ！

麗子が顔を上げたとき、まったく別人の顔になっていた。
顔の肌部分は真つ黒、目だけが赤く光ってて悪霊みたい。

そして何より全身が痛むほどの殺気。

最悪のスイッチを入れてしまったみたいね。

「寄ってこないでよ！ 変態！」

「大丈夫、暴れなければ痛くしないよ」

人生最大の生理的嫌悪感が私をあとずらせる。

もはや人のシルエットをしたモンスター、レベル。

これは聞く耳持ってないわね、なら。

「あんた、このあたしに勝てると思ってるの？」

「うん、だって火影は永遠の2位でしょ。常勝の私には勝てないよ」
なっ！ むかつく！

何が永遠の2位よ！ たしかに武術大会では無冠の女王って言われ続けたけど！

もう頭に来た！

麗子が椅子から立って歩いてきた。

間合いを詰めて右フック！ アゴに決まった！

頭が机にぶつかってかなりのダメージよ！

普通の奴なら大けがだけどこいつなら大丈夫よね。なんで悪霊モルドだし。

で、でも、手加減したわよ。

これで正常に戻れば良いんだけど。

ってゾンビみたいに立ち上がった！

「効かないよ、火影。だって私強いもん」

「なっ！ なんなのよあんた！ ってなにのんでのの？」

麗子は服から錠剤を取り出して飲んだ。

まさか失恋して薬に手を染めた！

そして今、幻覚症状？

どうしよう、医者呼んだ方が良いかしら。

でも、強い奴が居たら戦いたいわ。

気絶させて病院持っていつでも良いわよね。

よし、間合いをとって全身に魔力を込める。

「火影？ なんでかまえるの？」

「強い奴が居たらぶつつぶす！ それがあたしの流儀よ！」

「格好いい、麗子の好感度が上限値を超えましたー」

かなり深刻ね。

麗子の魔力を確認、行動を示すとおり障気に包まれてるわ。わか

りやすいほどの闇に飲まれてる雰囲気。

頑丈な理由はこの障気かしら、これを消す魔力でぶん殴ったあと

力業でいける！

約8畳の部屋で親戚の家だからあんまり派手な攻撃は出来ない。

結果、殴り合いは確実！

ゾンビのようにゆらゆら歩いてくる麻薬患者。

本気で殴るわ！

まず顔に1発目ストレート！

綺麗に決まって壁に飛んだ！

壁にめり込んで動けなくなってる！

かなりオーラが減ったわね、さらに拳に衝撃の魔力を宿らせてボ

ディーブロー！

よし！ レバーに命中！ 魔力が減ったわ！

でも変ね、普通ならうめくほどの威力なのに。
間合いを開けて様子見！

何事もなかったかのように壁から抜けた！ しかもまらゾンビの
ような動きで。

「どうしたの？ そんなつまらない攻撃して？」
「くっ！」

まともに決まったのに全然効いてない！
ちよつとやばいわね。

どうする？ どうすれば勝てる？

そっか、障気以外にもいろんな魔力を使って服を装甲にしてる。
ならその魔力ごとぶつぶつぶしてやるわ！

さつきとは違う魔力を腕に込めると赤く光り出した！

いかにも必殺技というモーションだけど今の麗子なら死なないわ！
心臓狙って突く！

命中！ 一見心臓を貫いたように見えるこの技、相手の魔力を破
壊するだけよ。

体の中をまさぐって手応えの強い部分を発見！

こいつを握りつぶすことで動けなくなる！

「あたしの勝ちよ！」

おもいつきにぎった！

その瞬間麗子の全身が爆発する！

ダイナマイトを炸裂させたような爆発で部屋中のモノが飛んでい
く。

決まったらすぐぬかないとくつついちゃうのよね。

再び間合いをとる。

「やり過ぎちゃったかしら」

いろんなモノが散乱してホコリが舞い散ってる。

あとで怒られるけど説得できるわ、麗子がこんな状況なら。

バリアを張って麗子がどうなったか見てあげないと。

けど、ホコリが一瞬で落ちた！

ホコリ凝縮の魔法、家庭的な人なら必ず学ぶお掃除魔法をここで。そして麗子は健在、むしろ全身から黒いオーラを出してる。さつきより凶悪化してるよね、医者呼んでくればよかった。黒いオーラの中で不気味に笑う麗子。

どうすれば良いのよ、なんだか身体が震えてきた……

「ありがとう、火影。レベルアップしたよ」
「嘘でしょ」

かなり魔力を込めたのに効かないなんて。こうなったら家が壊れるのも覚悟しないかね。

魔力の弾丸をセット！

発射するため腕を突き出そうとした瞬間組み付かれた！

「うそ、みえない」

「言っただしょ？ レベルアップしたって」

なによそれ！ 反則よ！

って今度は足かけられて倒される！

しかもまったく逆らえないままマウントとられた！

でもマウントならチャンスね、顔に手を当ててゼロ距離で弾丸連

射！

余波が来るなんて言っただけじゃない！

「このこのこのこのこのこのこのおー……！！！」

麗子の顔と思われる場所では弾丸が次々に爆発！

顔に直接撃てばかなり効くはず！

部屋はほこりだらけ、しかも爆発で何も見えない！

それだけ強力な衝撃よ！

これだけあてれば絶対に！

「ぐっ」

腹部に鈍い痛み！

思わず押さえたら肩をつかまれた。

まさか、あの状態でボディーブローできたの？

再びホコリが落ちたときちいさな悲鳴を出してしまった、不覚。

赤い丸だった目が半月上になった、悪霊の笑顔ね。

「弱いね、火影ちゃん」

「！んんん」

殴つても押しても爆発させてもダメ、どうすれば良いのよ！

ものすごくまずいことになってるわ、でもこれだけのことしたん

だもん。悔しいけど助けが来るまで持たせれば！

「キス、しようか」

「頭おかしいんじゃないの？」

「すぐ気持ちよくなるよ」

だめ、こわい！

待てないよ！ 誰か助けて！

やめて！

顔近づけないで！

いや！
やだ！
どんどん近づいてくる！

妖怪と初キッスなんでいやよ！

やだやだやだやだやだやだやだやだやだやだ――

!!!!!!!!!!!!

けど顔はどんどん近づいてくる。

目の前3センチ、もうアウト。

首を振ったら手でロックされた。

くう、くそ、このあたしが……

涙が出てきたとき、麗子の障氣が消えた。いつものお嬢様顔に戻ってる。

しかも綺麗な笑顔、まさかあたしの涙で？

そんな物語みたいなことないわよね。

あれ、景色が真っ白になっていく。

麗子が消えた。

すべてが消えた。

そして新たに見えたのはあたしの部屋。

しかも布団で寝てる。

寝汗はすごいけど服はもこもこ花柄パジャマ。

「よかった、夢だったのね」

全身からちからが抜けて大きなため息が出た。

あたし、助かったんだ。

よかった。

ものすごく疲れてるけど、よかった。

でも何もしたくない。

時計は午前5時を指してる、つまり麗子の部屋に行く前の時間。

いつもなら気持ちいい朝なのに動きたくない。

でも動かなきゃ。

ベッドから出ておとぎ話みたいな鏡の前で身だしなみ……

時計を見る限りあれは夢よ！

よく考えたら脳の訓練次第で夢でも痛みとか感じるじゃない！

あたしの脳は性能良いのよ！

少し自信を取り戻した、アイアムOK！

全身に魔力を込めたら少しからだが軽くなった！

いつも朝起きたときの習慣、机の上に置いたスポーツドリンク

を飲む！。

「これよこれ！ これ飲めば回復するわ！」

と言うことでマグカップに注いで喉を潤すわ！

のどごし最高ね、喉を越えるとともに体の中でなにか流れ出す。

いいわ！ 復活よ！

今日は祭りでやる演劇のミーティング！ 元気出さないとい

って、鏡の前には手紙が置いてある。

白くて四角い物体……

「まさ、か、ね…… あははははー」

最悪な夢だったわ。

でも夢だから大丈夫よ！

絶対大丈夫！

今度は手紙と言ってもメモみたいな感じだもん！
大丈夫！

ラブレターみたいな装飾はない、メッセージカードみたいな感じ。
おびえてそんしたわ。

さらに一口飲むと裏返した。

” 火影へ、お祭りの演劇について相談があります。
ヤンデレへの見識を聞かせてください ”

ってさっきのあんたじゃん。

あれ、これって……

演劇でヤンデレやるつもり？

麗子の相手役は私。

つまり……

「ちよっとー！ 正夢になっちゃっじゃんー！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8243s/>

愛しの火影様へ

2011年4月29日09時25分発行